

■公共図書館での実践事例

「わいわい文庫」を届けるための取り組み

埼玉県鶴ヶ島市立中央図書館
小関 帆賀

はじめに

鶴ヶ島市は、埼玉県の中部に位置する人口約7万人の街です。市内には中央図書館を中心に6つの分室と東武東上線若葉駅前にある商業施設の中にカウンターが設置されており、市民の暮らしに近い図書館です。

障害者サービスでは、バリアフリー資料の収集・貸出や郵送・宅配、対面朗読、高齢者施設での読み聞かせなどを行っています。

今回は毎年、伊藤忠記念財団よりご寄贈いただいているマルチメディアDAISY図書「わいわい文庫」を必要とする方へ届けるために取り組んできた工夫を報告します。

マルチメディアDAISY図書「わいわい文庫」の受け入れとりんごの棚の設置

(1) マルチメディアDAISY図書「わいわい文庫」の受け入れ

2017年度から受け入れを開始し、蔵書数は、2022年12月現在で419点となりました。当館では、赤ちゃんから高

校生までを対象にした作品が収録されている「わいわい文庫」を利用者のみなさんが年齢別に好きな作品を借りられるように、1作品ごとにCDへ書き込んで受け入れをしています。

また、1作品ごとに見開き4ページの解説書を作成しています。表紙は作品の内容がこういったものかわかりやすくするためにタイトルや作者など作品情報を入れ、他のページは「わいわい文庫」を読むための基本操作を簡単に説明しています。



ジャケット表紙

(2) りんごの棚の設置

受け入れ当初は、一般書架の点字資料の横に設置していました。図書館の中心に位置するカウンターよりも、入

口から見て奥に位置する書架に並べていたため、子どもたちの目には触れることが少なく、残念ながら問い合わせすらありませんでした。同じ時期から受け入れを開始した、やさしく読める本であるLLブックや、点字つきさわる絵本などは絵本として、児童コーナーに設置していました。そのため貸出はありましたが、たくさんある絵本の中に埋もれてしまい、なかなか必要とする方へ届けることができていませんでした。

そんな中、2018年度に開催された埼玉県図書館協会主催の障害者サービス研修会でりんごの棚の存在を知りました。「子どもは皆、本を必要としており、読書の喜びを体験する権利がある」という考えから、スウェーデンの図書館で生まれたこの取り組みは、日本の公共図書館でも広がりつつあると紹介がありました。見学させていただいた図書館のりんごの棚は、誰もが読書を楽しめる布絵本や点字つきさわる絵本などのバリアフリー資料だけではなく、さまざまな障害を理解するための本や触って形を楽しむためのぬいぐるみも置いていました。当館では前述のとおり、バリアフリー資料の書架が点在し、なかなか貸出もされないということもあったため、バリアフリー資料を集めたりんごの棚を新たに設置することになりました。

本来は子どものためにあるりんごの棚ですが、当館では年齢にかかわらず、通常の本を読むことがむずかしい方々のための本棚として、子ども向けの資料だけではなく、障害者のための就職情報誌など大人向けの資料や、一般の方向けの障害をテーマにした特集展示スペースなどを合わせて並べることにしました。場所も図書館に来た人にこの棚の存在を知ってもらうために、入口から入ってすぐの新刊コーナーの横に設置しました。設置以降、少しずつ改良を進めています。現在は大活字本や朗読CDを隣に設置することにより、通常の本が読みづらくなってきたご高齢の方にも、自分に合った資料を探しやすくなるような棚づくりとなりました。



りんごの棚の看板



りんごの棚の様子

マルチメディアDAISY図書体験会の開催と体験コーナーの設置

(1) マルチメディアDAISY図書体験会の開催

当館では、毎年12月の障害者週間に合わせて「つながるアート展」を開催しています。近隣にお住まいの障害のある方が制作したアートの作品展は、子どもから大人まで多くの方にご参加いただいています。この期間中は、出展者やその家族などふだん図書館を利用しない方も来館されるため、これまで障害を知るための講座や障害者サービスの紹介展示を併せて開催してまいりました。そこで、一般の利用者の方からマルチメディアDAISY図書について、くわしく聞きたいとお声をかけていただいたのです。その時、関心のある一般の方にもマルチメディアDAISY図書を知ってもらえれば、必要としている方に情報が届くのではと考え、2020年からマルチメディアDAISY図書体験会を開催することになりました。

体験会はさまざまな方が気軽に参加できるよう、中央図書館に入ってすぐのオープンスペースで開催しています。障害の有無にかかわらず利用できる「わいわい文庫」のブルー版をノートパソコンと伊藤忠記念財団からお借りしたiPadに入れて、参加者の方に実際に操作してもらいながら、個別に説明を行いました。体験会には、これまで

障害のあるお子さんがいるご家族や公共図書館職員、学校司書、学習障害のお子さんをサポートしている方、体験会の様子を見て興味を持って足を止めてくださった一般の方など、さまざまな立場の方にご参加いただきました。説明を聞き終わった方も自然と他の参加者同士で意見交換する様子もあり、マルチメディアDAISY図書に関心がある方の交流の場にもなり、より理解を深めていただけたようです。

参加者の方からは「体験できて楽しかったです。参考になりました。活用できそうなところもあったので、ぜひ今後につなげていきたいと思います」「鶴ヶ島市の学校でも学習障害の認知度は低く、支援はこれからという状況。これからもたびたび開催してほしい」などお声をいただきました。マルチメディアDAISY図書はまだ認知度が低い資料ですが、必要とする方に届けられるように、図書館を利用するみなさんへ説明する機会を作り、広げていくこの取り組みは必要不可欠なものだと改めて感じました。



体験会の様子

(2) 体験コーナーの設置

毎年12月に体験会を開催するようになりましたが、定期的な貸出にはなかなか繋がりませんでした。やはり、年1回ではマルチメディアDAISY図書に触れる機会が少ないので、伊藤忠記念財団からお借りしているiPadへ最新のブルー版を入れて、いつでもどなたでも体験できるように、2021年からりんごの棚の横に常設の体験コーナーを設置しました。

体験会の参加者は、当事者にかかわりのある方が中心でしたが、体験コーナーではさまざまな年齢の方に手に取ってもらう機会が増えるようになりました。特に子どもたちは画面や文字の色が変えられたり、音声スピードを早めたりするなどのカスタマイズに興味をもって、楽しんで読んでくれます。設置以降少しずつですが、お問い合わせをいただけるようになりました。利用者みなさんからお話を聞くと読むための手段がないということがたびたびありました。近頃はパソコンを持たない家庭が多いようです。そのような方にどのようにして「わいわい文庫」を届けるかという課題が見えてきました。パソコンがなければ、タブレットにもデータを移動できないので、そこを解決できればより多くの方に利用してもらえるようになるかもしれません。



体験コーナー

今後の取り組み

鶴ヶ島市立図書館では、マルチメディアDAISY図書を普及するため、さまざまな工夫を行ってきました。ただ、興味を持ってもらっても、継続的な貸出にはまだ繋がっていないのが現状です。今後は体験会などの広報イベントを継続しつつ、利用しやすくなるように団体貸出や図書館内で、いつでも「わいわい文庫」の閲覧ができるような環境整備などを行っていく予定です。

マルチメディアDAISY図書は、学習障害だけではなく、知的障害や日本語が母国語ではない方などさまざまな障害のある方々にもおすすめできる資料です。まだまだ、潜在的利用者がいると思うので、一人でも多くの方に、読書の楽しさや喜びを届けられるよう取り組みを続けていきます。